

人体構造学実習		実習	教授 西川 彰
科目カテゴリー	柔道整復師コースの専門基礎科目	科目ナンバリング	12311201

1. 授業のねらい・概要

柔道整復師が診察を行う際の基本となる方法には、「視診」「問診」「触診」の3つがあり、そのうちこの授業では「触診」に関する知識と技術を学ぶ。すでに人体構造学で学んだ知識を基として体表面より皮下にある運動器（骨、筋など）の情報を知り、臨床上の診察に活かせる基礎的な触診技術が習得できるよう実習形式の授業を実施する。

2. 授業の進め方

四肢の主要な関節（肩関節、肘関節、手関節、股関節、膝関節、足関節）の解剖学的特徴を解説し、さらにその周囲でランドマークとなる部位の触診ポイントについては学生同士が2人1組のペアとなり反復練習を実施しながら実習を進めていく。また、毎回の授業終了後には「触診実習レポート」を作成し、次の授業開始時の提出課題とする。

3. 授業計画

1. ガイダンス 触診法の総論	8. 手関節・手部②（手根骨および手指骨） 9. 中間試験
2. 肩関節・上腕部①（鎖骨）	10. 股関節・大腿部（骨盤骨および大腿骨近位端）
3. 肩関節・上腕部②（上腕骨近位端）	11. 膝関節・下腿部①（大腿骨遠位端）
4. 肩関節・上腕部③（肩甲骨）	12. 膝関節・下腿部②（脛骨および腓骨近位端）
5. 肘関節・前腕部①（上腕骨遠位端）	13. 足関節・足部①（脛骨および腓骨遠位端）
6. 肘関節・前腕部②（橈骨および尺骨近位端）	14. 足関節・足部②（足根骨および足趾骨）
7. 手関節・手部①（橈骨および尺骨遠位端）	15. まとめ

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

互いの解剖学的知識と触診技術を高めるために、学生同士が協力しあって「触診実習レポート」作成に取り組んだ上で、毎回の授業に臨むこと（1時間程度）。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポートについては添削、採点を行った上で返却する。また、定期試験については正答と問題の要点を希望者に配布する。

6. 授業における学修の到達目標

本授業では、構造学的な特徴をただ暗記するだけでなく、その機能や病態との関連性などの統合的な理解を得ると同時に、運動器における触診法の基礎的技術を習得することを目標とする。

7. 成績評価の方法・基準

提出課題（レポート）（約30%程度）並びに定期試験（中間試験、期末試験）の結果（約70%程度）より総合的に評価する。

8. テキスト・参考文献

全国柔道整復学校協会 監修、『解剖学 第2版』、医歯薬出版、2008年
竹内義亨、大橋淳、上村英記 著、『カラー写真で学ぶ 四肢関節の触診法』、医歯薬出版、2007年
その他の参考資料は、必要に応じて授業中に紹介または配布する。

9. 受講上の留意事項

毎回の授業時にはテキスト並びに配布プリントを必ず持参すること。

講義回数の 3 分の 1 以上を欠席した場合は、定期試験の受験資格を失うこととする。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は、人体解剖トレーニングセミナーにおける実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。